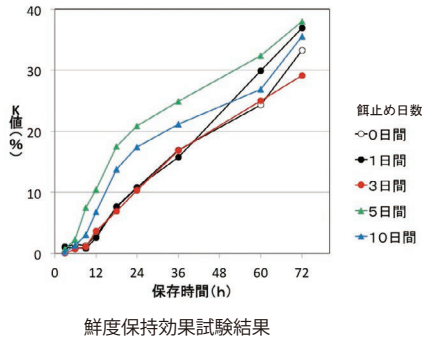


◎主な研究成果のご紹介

◆商品力の強いマス類の生産に向けて

【目的】市場競争力の強い養殖魚の量産技術を開発する。
 【結果】均質な大型ニジマスの量産、高鮮度出荷技術を確立した。
 【今後】指導参考資料として生産者に普及する。



◆サケの回帰資源を支えるふ化場指導

【目的】資源の増大及び回帰率向上を図る。
 【結果】親魚捕獲尾数・ふ化場の増殖実態を把握した。
 【今後】稚魚の適正飼育管理と適期・適サイズでの放流を普及する。



サケ採卵作業

◆ヒメマス漁業者と漁協の経営基盤の強化に向けて

【目的】資源状態と生態に関するデータ収集と解析を行う。
 【結果】採捕魚の年齢組成により、資源状態を把握した。
 【今後】指導参考資料として漁業関係者に普及する。



ヒメマス集荷場調査

◆サクラマスの回帰資源増大に向けて

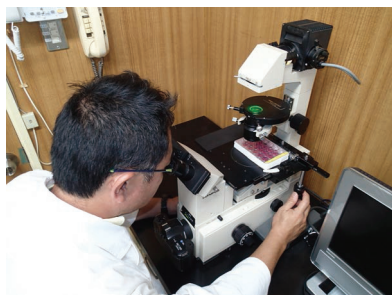
【目的】放流効果の把握と増殖技術の向上を図る。
 【結果】放流魚の生産状況や移動分布、早期放流効果を把握した。
 【今後】指導参考資料としてふ化場関係者に普及する。



リボンタグ標識を施されたサクラマス幼魚

◆養殖場等の魚病被害の軽減

【目的】養殖衛生管理、疾病対策に関する技術・知識の普及を行う。
 【結果】魚病診断、防疫パトロールを行い、魚病被害の軽減に努めた。
 【今後】指導参考資料として増養殖関係者に普及する。



魚病検査(検鏡中)

◆ニホンウナギの資源回復へ向けて

【目的】小川原湖及び高瀬川におけるウナギの生態を把握する。
 【結果】放流後5か月で全長が10cm以上成長するウナギが確認された。
 【今後】関係者と成果を共有し、資源管理に役立てる。



採捕された標識付きウナギ

◎その他の試験・研究・調査のご紹介

- ◆淡水・海産魚類の魚病診断及び医薬品感受性試験
- ◆コイヘルペスウイルス病モニタリング調査
- ◆ヤマトシジミ、ワカサギの資源管理基礎調査

- ◆マス類の量産技術開発試験
- ◆カワウによる内水面漁業被害を把握するための調査
- ◆小川原湖と十三湖のモニタリングを行う漁業公害調査指導事業